

【参考】

1. 家畜ふん堆肥の種類と特徴

- ・牛ふん堆肥は、窒素含有率が1%前後と低い場合が多く、その分解が遅いことから、肥料成分の供給はあまり期待できませんが、土づくり（特に物理性の改善）の効果に優れています。
- ・豚ふん堆肥は、窒素成分を比較的多く含有しています（窒素含有率2~3%の場合が多い）。土壌中での分解は比較的速いので、有機質肥料に近い肥効が期待できます。
- ・鶏ふん堆肥は、窒素成分が多く（窒素含有率3%前後の場合が多い）、土壌中での分解が速いため、そのまま有機質肥料として使えます。

※堆肥の特徴、分解特性等については、以下のHPも参考にしてください。

佐賀県施肥・病虫害防除・雑草防除のてびき<麦類・野菜・花き・飼料作物>

→施肥関係参考資料（Ⅲ-1）有機質資材の利用の留意点等（p81~90）

www.pref.saga.lg.jp/kiji00387165/3_87165_250059_up_718rz2x6.pdf

佐賀県施肥・病虫害防除・雑草防除のてびき<水稻・大豆・果樹・茶> —水稻・大豆の施肥—

→I 水稻の施肥 <参考資料> 6. 有機質肥料を用いる場合の施肥設計上の注意（p13~18）

www.pref.saga.lg.jp/kiji00388683/3_88683_257934_up_udije7yy.pdf

2. 堆肥施用の効果

1) 土壌の物理性の改善

堆肥を施用した土壌では、団粒構造の発達が認められ（右図）、孔隙率が増加し、いわゆる膨軟な土壌となります。その結果、通気性、透水性および保水性が増加し、作物の根群の伸長、発達も良くなります。

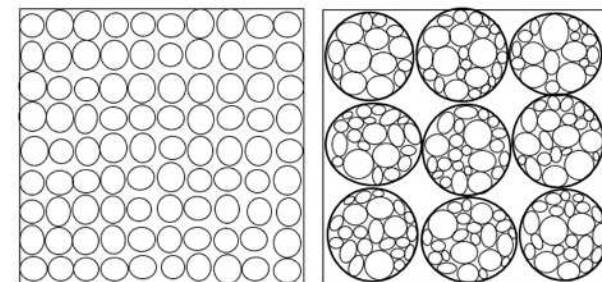


図 土壌の単粒構造（左）と団粒構造（右）

注）団粒構造の方が、土粒子の間のすき間（孔隙）が大きい。

2) 土壌の生物性の改善

多くの有用菌の活性を高め、施用した堆肥の有機物だけでなく土壌中に蓄積されていた有機物の分解が促進されることで、作物に対する養分供給力が増します。また、土壌の微生物が豊かになると、病原菌など特定の微生物の急激な増加が抑えられます。

3) 土壌化学性の改善

土壌中で有機物が分解することにより、腐植物質が増加します。この腐植物質は、養分保持機能を高めます。これにより、急激な pH の変化などを避けることができ、安定した養分供給を可能にします。

3. 留意事項

- ・未熟な堆肥の施用は、残っている有害な成分やガスの発生等で、作物の根を傷めます。
- ・堆肥の過剰投入は、作物の生育阻害や品質の低下を招きます。
- ・堆肥には各種の肥料成分が含まれていますが、それらのバランスは作物が要求する養分と必ずしも一致しているわけではなく、さらに、種類によっては肥効が遅いものもあり、堆肥だけで初期生育を確保するには困難な場合も多くみられます。よって、堆肥施用に当たっては、成分に十分配慮したうえで、必要に応じ、化学肥料をうまく併用することが重要です。

4. 堆肥のその他の効果について

堆肥を使った土づくりは、土壌中の炭素の貯留を通じた地球温暖化の防止や有機物資源の循環利用の促進など重要な役割を果たしています。

このように、堆肥の施用は、環境にやさしい農業の取組の一つです（農林水産省 HP でも紹介されています）。

5. 堆肥利用者の声

収量減を感じ堆肥を使用してみたところ、収量増につながったように思う。地力がついてくるようにも思うので、使用を続けたい。



数年堆肥を利用しているが、堆肥を入れると質の良い農産物が出来る。また味も良くなる。堆肥は農産物生産に欠かせない。



※結果を保証するものではありません。個人の意見・感想です